

令和8年度 第1回中央市総合教育会議 議事録

招 集 日 時 令和8年6月30日（火）午前10時から11時30分まで

招 集 場 所 中央市役所 南館 2階 205会議室

出席構成員 市 長 望 月 智 教 育 長 石 田 秀 博
教育長職務代理者 河 西 忠 衛 教 育 委 員 望 月 孝 之
教 育 委 員 薬 袋 美 和 教 育 委 員 石 原 英 一

出席説明員 教育総務課長 窪 田 雅 一 生涯教育課長 有 泉 浩 貴
教育指導監 諸 星 嘉 史

事務局職員 総 務 課 長 青 柳 健 治 総 務 課 渡 辺 圭 太
総 務 行 政 担 当 杉 本 烈 総 務 行 政 担 当 村 松 拓 哉
総 務 課 相 田 峻 汰
総 務 行 政 担 当

傍 聴 者 なし

協 議 事 項 今後の中央市の教育について
「玉穂地区市立小学校のあり方について」

議 事 録 次のとおり

事 務 局 これより令和8年度第1回中央市総合教育会議を開会いたします。
初めに市長より挨拶を申し上げます。

市 長 本日はお忙しい中、第1回中央市総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。本日は、議事として協議事項と報告事項がございます。協議事項は、以前ご報告いただきました中央市玉穂地区市立小学校のあり方についてとなります。報告事項は、「中央市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」についてです。
限られた時間ではございますが、皆様の忌憚のないご意見等いただく中で進めて参りたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

事務局	続きまして、議事に入ります。議事の進行につきましては、お手元に配布してあります中央市総合教育会議設置要綱第3条第4項の規定により、市長に進めていただきます。それでは、市長よろしくをお願いいたします。
市長	それでは議事に入ります。 中央市教育委員会では、令和5年度の学校のあり方検討委員会の設置に始まり、令和6年度の地域検討会議、そして令和7年度の学校再編協議会と、長きにわたり学識経験者、学校関係者、そして何よりも地域の皆様の声を丁寧に拾い上げながら、精力的に議論を重ねてきたところだと思われます。その集大成として、教育委員会から市立小学校のあり方に関する提言書が過日提出されました。その内容は、2校を統合し新たな学校を建設すべきという明確な方向性を示すものでした。 現在、地域では統合に賛成するご意見と、現在の学校の存続を願い統合に反対するご意見が拮抗している状況にあるものと思われます。 これらを踏まえて、委員の皆様方には、私から質問と再度確認したい事項について4点お尋ねしたいと思います。本日の会議では皆様から忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。 まず初めに、「長寿命化では教育の質が確保できないのか」という問いでございます。平成30年度に策定した「長寿命化計画」を基本としつつ「田富小学校」のように改修の工夫によって新しい時代の学びに柔軟に対応できる環境を創り出すことは、不可能なのでしょうか。この点につきまして、ご意見をお願いいたします。
教育委員	今後、子どもの人数は減少が見込まれます。それに伴い学校が小規模校となると、クラスが単級化し、人間関係の固定化が懸念されます。今の子どもたちへの教育方針は、知識を詰め込む教育から、自分で物事を考え、切り抜けていく力を養う教育に変わってきています。長寿命化では、それらへの対応の実現は難しいと考えています。ICT教育等を進めていくうえで、現状のままでは教室や机の大きさが課題になってくると思われます。また、子どもが減り単級化が進むと、学校が小さくなり、教員の数も少なくなります。小規模になると一人の先生が仕事を兼務することが多くなり、負担が増すことで、子どもへの影響も大きくなってくると考えられます。 このことから私は長寿命化よりも、各学校の統合を検討していくことが適切であると考えます。
教育委員	長寿命化では教育の質が確保できないとは思っていません。 長寿命化改修を行った田富小学校は、フリースペースの確保や安全面に考慮された建物となっており、改修することでここまで変えることができるのかと実感しました。しかし、改修だけでは教室の広さを変えることは出来ず、限界があることも実感しました。ICT教育を推進するためには机も広くする必要があり、そのためには教室

を広くしなければいけないと感じます。また、インクルーシブ教育が推進されており、障害のある子や、国籍が異なる子、また、学習の得意不得意にかかわらず、できる限り同じ学びの場でともに学ぶ環境を整えていく必要があると思います。そのためには、子ども一人一人の特性や学習するペースに合わせた支援を行い、時にはクラスや学年を跨いで活動することも必要になってくると思います。そういった場合に柔軟に対応することができる教室を整備することで、さらに教育の質を高めることに繋がるものと考えています。

教 育 委 員

田富小学校は長寿命化改修により校舎が新しくなったことで、特に外側から安全を守るといった面ですごく良くなったと考えています。しかし他の学校、特に三村小学校では、校舎から校庭における児童の活動を目で追えない、把握することができないという現状があります。緊急時における迅速な職員対応が可能である学校でなければなりませんので、安全面という点では長寿命化改修では対応できないと考えます。

また、最近整備された学校では、教室を横に広く設定することが多く、黒板を広くとれる、教員と児童との距離が近くなる、大型モニターを設置しても黒板を妨げないなど多くのメリットがあります。

さらに、長寿命化改修では教室の大きさを変えることが困難であり、ICTを活用した新しい学習指導を展開する上で、学習機の大きさなどを考えると現状の教室では対応しにくいという課題が残ります。

統廃合を行い新しい学校において、環境を整えることが最も望ましいと考えます。

教 育 委 員

長寿命化では教育の質は確保できないと思います。

ハード面については、築40年以上経過しているため、ただ単にリニューアルして使用するということは、難しいのではないかと思います。

明るく、清潔で、快適な環境に優しい空間を作り、子どもたちの自己肯定感と集中力を高め、子どもたちの力を引き出すことで、安心と安全を担保することが出来ます。そのためには、長寿命化ではなく、統廃合による新しい建物が必要ではないかと思われます。

かつての昭和50年代の校舎では、いわゆる詰め込み教育に合わせた設計がされているため、現在の個別最適な学びを行うには構造上限界があると考えます。GIGAスクール構想も第2フェーズに入り、ICT教育を推進していくうえでも、一人一台タブレットを机に置くスペースが必要になります。電子黒板やデジタル教科書が導入されることでモニターを設置する必要も出てくるため、配線上の問題も発生してきます。また、個別最適化を図るうえで、一人一人のペースや進度、理解度に応じてデジタル機器を活用するためには、オープンなスペースも必要です。

さらに今後は、大きな空間を使って、アクティブラーニング、いわゆる能動的に動いて学ぶ機会が増えてくるので、机を自由に動かし、グループで活動するためには、

旧来の一斉授業を前提とした現状の広さのままでは、スペース的に限界があると考えられます。

アクティブラーニングが推進されていくなかで、黒板の前に立ってのプレゼンテーションやポスターセッションなど、スペースを自由に活用した授業が可能となる教室が求められます。

もう一点、今は非常に多様化が進んでおり、障害のある児童や不登校の傾向がある児童への配慮も必要です。多目的トイレの設置、子どもや保護者との相談スペースの確保など、児童が安心して過ごせる場の整備は、躯体を残した改修では難しいと考えます。また、デジタル化に伴うスペースの確保や、電気回線等の確保という物理的な課題も挙げられます。以上の点から、長寿命化では教育の質は確保できないと考えます。

市長 現に田富小学校は長寿命化改修を行いました。状況を見つつ今後は三村小学校、玉穂南小学校の長寿命化を行うのか、それとも統廃合とするのかという議論になると思います。

校舎を建てるうえで、教室の広さについて子ども一人当たりに対しての面積基準等が何か決められているのでしょうか。

教育長 校舎建設時に国の補助制度を活用する場合の補助金額の算定において、面積基準が決められているものがあります。

市長 わかりました。ありがとうございます。

次に2点目に移りたいと思います。

「小規模では教育の質が確保できないのか」という点でございます。

こちらにつきましては提言書にあるとおり、適正規模の集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することの重要性は理解しております。

しかし、令和5年度に市教育委員会が設置いたしました中央市の学校教育のあり方検討委員会からの提言書では、小規模校には一人一人に目が届きやすい、地域社会との連携が図りやすいといったきめ細かな対応が可能となるということで、大規模校にはないメリットも存在するとの明示もされています。

これからの時代に求められる個別最適な学びや、主体的で深い学びを考えたとき、この小規模校のメリットを最大限活かすという選択肢はどうなのでしょう。この点についてお聞きしたいと思います。

教育委員 小規模校にもメリットはあると思います。しかし、選択の余地がないのであればともかく、中央市のように子どもがまだたくさんいる中であれば、ある程度の適正規模の学校にすることによって、子どもたちが切磋琢磨し、今のうちから社会に適応する社会性を養うといったところに力を入れていくべきではないかと考えます。教育の質の向上という意味では、ある程度の適正規模をしっかりと確保するというこ

とが必要であると考えております。

教 育 委 員

私の子どもは、中央市の中では小規模と言える小学校に在籍していたので、小規模校ならではの魅力を感じる部分が多くありました。

少ない人数だからこそ、子どもの同級生の顔は全員分かりましたし、保護者の顔も分かりました。そういった点では、地域との連携が図りやすく、先生方の目も届きやすいという部分があり、保護者としてありがたいことだと感じました。

一方で、中学に進学する際に、これまでの1クラスから4クラスに増えることに直面した子どもが、すごく不安に感じていたことを覚えています。

社会は大人数の中で生きていかなければなりません。小規模で大人の目が行き届いた環境も大事ではありますが、早い時期から大人数の中で切磋琢磨していくことの方が大事ではないかと考えます。

教 育 委 員

小規模校でも、教員の質がしっかりしていれば十分教育の質は確保できると考えております。

しかし、児童数の減少により単学級になってしまうと、中学校進学時に急に大きな環境となることによる「中1ショック」が起こる可能性があります。また、6年間で人間関係が固定化してしまいます。コミュニケーション能力を身につける面でも不利であり、大勢の友達と切磋琢磨して社会性を身につけ、生きる力を伸ばすという面でも、やはり適正規模の学校の方がより良いと感じています。

また、小規模校の場合、当然教職員の数も少なくなります。しかし、職員が担う校務が増加する中、学校が小規模になると一人一人の負担が大きくなり、その分児童に向かう時間が少なくなってしまう、児童を理解するという面での妨げになることが懸念されます。また、私の教員経験に基づきましても、教員の質の向上は先輩からの指導が大きく影響します。教員を育て、教育の質を高めるためには、小規模校では問題があると考えております。

教 育 委 員

質の確保はできますが、より良い教育水準を保つには、小規模校よりもある程度の規模を保つことが必要であると考えます。

理由の一つ目として、学校は社会の縮図であると考えからです。

社会性や協調性を学ぶ場であるとなると、大きな集団の中で自分の位置を確認することが必要になります。母集団が大きくなることで、仲間同士での切磋琢磨、交流、様々な意見に触れることで多様な価値観を自分の中に取り入れることができると考えています。

二つ目は、小規模では人間関係の固定化が進んでしまうからです。過去の経験からも、固定化は大変なことと感じています。

複数クラスになれば、クラスや先生が変わることで子どもの逃げ場をつくることができます。人が増えることで様々な対策を考えることができ、子どもにとっての逃げ場をつくることも可能であると考えているためです。

	三つ目は、小規模では活動の幅が狭くなることが危惧されるからです。 小学校や中学校におけるクラブ活動などにおいても、人数による制限が生じた場合、活動の多種多様な選択ができにくくなってしまいます。活動の幅を与えることで、子どもたちは成長していき、そこで培われる人間教育はとても大事だと感じています。 四つ目は、教員の働き方改革です。 学校の規模に関わらず、担う仕事は同じです。小規模では教員が少なくなること、一人が担う役割が非常に多くなってしまい、子どものためにかける時間の確保が困難になります。中規模校でクラスが増えると、教員も増えます。仕事を分担することで責任も、仕事量ももちろん減っていくという状況になりますので、やはり適正規模に応じた集団が学校には必要だと考え、適正な規模であることが必要だと思います。
市 長	小規模では教育の質が確保できないわけではないということですが、子どもたちの将来を見据えた中で社会に飛び込む準備として、適正な規模であることが必要だということですね。 それでは次に3点目に入らせていただきます。 「長寿命化や小規模で教育の質も確保できない場合、他校の扱いはどうするのか」という問いになります。 三村小学校と玉穂南小学校の統合ということで提言をされているのですが、例えば、現状児童数が少ない豊富小学校と田富南小学校について、今後どのようにしていくべきかお考えをお聞きたいと思います。
教 育 委 員	今回の統廃合を一つのきっかけとし、中学校も含め、中央市全体の小中学校のあり方について、人数の変化、時代の変化を一つの考慮すべき点として、随時考え直していくスタートとするべきだと思います。 今現在統廃合の検討がされていない学校についても、すぐ10年20年という歳月が過ぎると思います。できるだけ子どもたちの教育の環境を公平に保つという意味で、ICT環境やその他の施設、空調設備等は随時更新しながら、適正規模を維持する学校づくりができるかという方向を考える必要があると思います。
教 育 委 員	私も三村小学校と玉穂南小学校の統合がすすんでいく場合、豊富小学校も加えた話し合いをしていく必要があると思います。田富地区についてもいずれは3校が統合に向けて考えていく方向が良いのではと思います。統廃合が難しいという方向になったとしても、ICT教育を活用して近隣校とオンラインでの交流や合同での部活動を行うなど、各校が関わりを持ちながら進めていくことができればよいと思います。
教 育 委 員	学校訪問では、小規模校である豊富小学校も田富南小学校も、落ち着いた環境で学

習が展開されていきました。今後さらに児童数が減り、複式学級といった状況になることを避けるためにも、将来的にはスクールバス通学などの方法も考え、新しい学校と一緒に通い勉強するといった、学区再編を考えていかなければならないと考えます。

教 育 委 員

他の委員の意見と同じような形になりますが、「長寿命化や小規模校で教育の質は確保できない」ということを前提に考え、現在は小規模校に該当していなくても、近い将来子どもの人数が減っていくことを想定すると、やはり統廃合ということを経営的に考えていくのがベストであると考えました。

将来再編が想定される学校、田富南小学校であれば田富小学校や田富北小学校との交流を密にしていくことが大事であると思います。ICT 教育が推進される中で、近隣でオンラインの合同授業を行うこともできますし、集会や学校行事、または宿泊行事、スポーツの大きな大会も合同で実施していくなど、将来を見据えた具体的な取り組みとして考えていく必要があると考えます。人と人との触れ合いも大事ですので、できれば対面で開催することで仲間との交流もより図ることができ、社会性やコミュニケーション能力の向上、さらには中 1 ショックの緩和につながると思います。

市 長

皆様のご意見を聞く中で、豊富小学校も田富南小学校も児童数は減少傾向であり、方向性について検討していく必要があると考えます。また、対面やオンライン等で事前に繋がりを持っておくということも必要だと感じました。今後どのような形で進めていくかは、皆様とまた議論を深めながら考えていきたいと思っております。

それでは最後の質問をさせていただきます。

「統合によってどれだけ素晴らしい学校ができるのか」という点でございます。提言書では、子どもファーストを基本に GIGA スクール構想といった新しい時代の学びを実現する教育環境の整備、そして将来の児童数減少を見据えた適正規模の維持という二つの大きな観点から、既存校の長寿命化改修には限界があり、統合による新設校の建設が最善であると位置付けられています。その論旨につきましては、データに基づいた説得力のあるものであり、私も内容を真摯に受けとめているところです。しかし、この件に関しましては市民の皆様の様々なお考え、ご意見等がございますので、一人でも多くの市民の皆様に取り添った対応も必要だと考えております。統合反対、存続推進などの様々なご意見を持つ方々にどのような説明をし、いかに納得していただけるよう取り組んでいくのか、という点を委員の皆様にお伺いしたいと思います。

教 育 委 員

複数クラスの編制を維持することで、先ほども議論された点が改善され、多様な価値観に触れ、切磋琢磨することで豊かな社会性や協調性を育むことができるものと考えます。

もし質問が「統合によってどのような学校が作れるのか」という趣旨であるとし

たなら、中央市ならではの特徴を持った学校づくりについて、ぜひこの機会に考えていくことも検討していただければと思います。例えば、中央市の ICT 教育に関する水準は県内ではかなり高い方に位置すると聞いております。ICT 教育に力を入れた学校づくりについては、ハード面においても大変重要な点だと感じております。将来こういった子どもを輩出したいという理念のもと、中央市の特徴、特色を持った学校づくりをすすめていくことで、より素晴らしい学校ができると思います。

教 育 委 員 私も同じ考えです。中央市ならではの教育、そこに魅力を感じてもらうことで、より良い学校のある中央市に住みたいと考える保護者の方はすごく多くなると思います。魅力的な学校にするためには、多くの子どもたちと多くの先生と、大きな新しい校舎を作っていくことで、可能性が広がっていくと思います。

教 育 委 員 ICT 教育の活用に適した校舎、広い黒板、タブレットとディスプレイを有する GIGA スクールに対応した教室づくりが可能になると思います。地域の教育力を効果的に活用できるスペースの設置や、地域資料を集めて置いておくスペースを設置することで、コミュニティスクールの質を上げることもできると考えます。

また、インクルーシブ教育、多様な子どもたち、様々な課題を持った子どもたちが一緒に学校で学べる校舎づくりができると考えます。

さらに、外部や内部からの脅威を防ぐ設備を設けるなど、これらに対応できる施設をつくることができると考えています。

教 育 委 員 現代社会では ICT 化が進み、私たちが育った昭和の時代とは異なり圧倒的に変化しています。ハード面・ソフト面が教育の質につながると考えた場合、現代において子どもたちにとってのファーストは何か。子どもファーストの視点に立って教育の質を考える使命と責任が、我々にはあります。

これまでの地域コミュニティにこだわってはいは、その地域の核となるものを新しく作り上げていくことに繋がらないと思います。従前のものにこだわりすぎて後退するようなことがあってはなりませんので、統廃合による校舎を含めたより良い環境を作るべきだと考えています。地域コミュニティの核となる学校を存続させたいという意見もありますが、もともとは玉穂南小学校も三村小学校も一つの学校でした。地域も風土も文化も実情も実態も十分に理解してこそ統合するべきだと感じます。これから将来、玉穂南小も三村小も、田富も豊富も関係なく、中央市としての子どもを育てていかなければなりません。いずれは、中学校の再編もありえるでしょう。そのときには中央市としてより広い視野で考えていく必要があります。

もう一点は、新しい学校をすることによって、防災拠点となりうるということです。地域に開かれたと言われて久しい学校の敷居をもう少し広くすることも必要です。体育館や図書館、多目的スペースなど、活用の幅が広がります。

また、危機管理の観点においても、校舎から運動場が見渡せないといった点が改善可能であり、仮に不審者が入ってきても迅速な対応ができるようになるなど、危機管理機能が決定的に向上すると思います。

防災拠点となりうる可能性を秘めた学校の設計や環境づくりを考えていくと、現状では、統廃合という形が最も妥当であると思います。

市長

ありがとうございました。それぞれ委員の皆様方からご意見をいただき、特色のある学校作りや教育環境作り、防災拠点のお話がありました。地域コミュニティの場といったご意見もあり、県外の例ですが、学校を統合する際に、公民館機能や児童施設などを作って複合的な機能を持たせるといった例もありました。特色ある学校づくりということで、中央市の学校に通いたいと思ってもらえるような学校づくりが必要であると思います。

統合すべきであるという提言につきましては、私自身も十分理解しております。今回貴重なご意見をお伺いする中で、教育委員の皆様がそれぞれ抱えている今の学校教育の実情と将来への展望について、大変心強く感じ取ることができました。

一方で、市民の皆様からは、この件について当然賛成もあれば反対という意見もあります。その点についてもご理解いただき、引き続き議論を重ねながら慎重に進めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは協議事項については終了とさせていただきます。

次に報告事項ということで、「中央市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」につきまして、教育長から説明をお願いします。

(教育長から概要説明。その後、教育指導監から詳細説明。)

市長

ありがとうございました。

ただいま報告事項として中央市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画につきまして、説明がございました。この報告の件につきまして、何かご質問、お聞きになりたい点等ございましたらお願いいたします。

(質問、意見無し)

よろしいでしょうか。それでは以上で本日予定されておりました議事につきましてはいすべて終了とさせていただきます。進行を事務局にお返しいたします。

総務課長

続きまして、次第の4、その他となりますが、次回の会議の開催についてご案内をさせていただきます。総合教育会議で協議すべき事項の中に、緊急な問題が生じた場合というものがありますので、必要な場合には会議の招集をさせていただきますが、特段緊急を要する問題がなければ、次回については、来年度の開催を予定しております。

それでは、以上をもちまして、令和８年度第１回中央市総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。